



外務大臣 岸田 文雄 様  
国際協力機構 理事長 田中 明彦 様

CC:  
内閣総理大臣 安倍 晋三 様  
財務大臣 麻生 太郎 様  
経済産業大臣 宮沢 洋一 様  
国際協力銀行 代表取締役総裁 渡辺 博史 様  
日本貿易振興機構 理事長 石毛 博行 様

2015年4月27日

## 懸案であるミャンマー・ダウエイ経済特別区事業への日本の関与停止要求について

私たち、ダウエイ開発連合（Dawei Development Association : DDA）は、2013年5月25日にも最初のレターを貴職に提出しましたが、国際協力機構（JICA）がミャンマー・タニンダーリ地区のダウエイ経済特別区（SEZ）事業に関連する道路連結事業（メコン国際幹線道路連結強化事業の一部として）に関与するという最近の報道を非常に懸念しています。ダウエイにおけるこれらの開発事業は、すでに深刻な社会環境影響や人権侵害を近隣のコミュニティに引き起こしてきました。また、これらの事業は、日本にとっても経済的・政治的リスクを伴うものです。私たちは、JICA、および、あらゆる潜在的な日本のステークホルダーが、このような問題を孕んでいる事業に現時点で参加しないよう要求するとともに、以下に詳述する既存の問題やリスクが適切に解決され、地元コミュニティへのさらなる負の影響を回避、もしくは、軽減するための計画がしっかり策定されるまで、JICAが関与を控えるよう要求します。

DDAはこれまでにダウエイ地域での広範囲にわたる調査を実施しており、ダウエイ SEZ や JICA が支援を予定している道路連結事業を含む関連事業によって、20 から 36 村の住民が直接的な影響を受けると予測しています。<sup>1</sup> ダウエイ SEZ 事業の直接的な影響を受ける 20 村での私たちの量的・質的調査の結果では、事前に何ら情報を提供されることもなく、コミュニティが重要な生計手段

---

<sup>1</sup> ダウエイ SEZ、および、関連事業による地元コミュニティへの影響について、より詳細な情報は、<http://www.ddamyanmar.com/?p=811> の"Voices From the Ground: Concerns Over the Dawei Special Economic Zone and Related Projects（調査報告書「現場からの声：ダウエイ経済特別区および関連事業に関する懸念」"を参照のこと。



である農地や天然資源を失っていることが明らかになりました。影響を受ける村人との意味ある協議は行われておらず、補償手続きには大変不備がありました。<sup>2</sup>

さらに、ダウエイ SEZ の開発主体はこれまで、強制退去、十分な食住への権利、そして、先住民族の権利に関する国際、地域、国内レベルの関連法規、基準、その他の責任を守ってきませんでした。もし、JICA がダウエイ SEZ に関連した道路連結事業やその他の事業に関与するならば、JICA はまず、こうした問題への取り組みが十分になされるよう確保しなければなりません。

しかし、JICA はミャンマー政府の不十分なガバナンスやマネジメント能力に鑑み、こうした問題に取り組むことの難しさを認識しなくてはなりません。ヤンゴン近郊のティラワ SEZ では、第 1 期事業で 300 人近くの住民が移転させられ、次期以降、さらに 4,000 人が移転をさせられることとなりますが、国内法規や国際基準だけでなく、JICA 環境社会配慮ガイドラインにも違反しているとして、同 SEZ への出資を巡り、JICA はすでに非難を浴びてきました。そして、同事業では、JICA の異議申立手続の下、住民が初めて JICA に異議申立てをする結果に至りました。JICA はまた、ミャンマー南東部地域総合開発計画プロジェクトに関して、地元、および、地域の市民社会グループから非難を受けています。<sup>3</sup> JICA のダウエイ SEZ、および、関連事業への関与は、この増え続けているリストに新たな事例が加わるという意味で、悪しき決定と言えるでしょう。

JICA はまた、地元コミュニティが道路封鎖<sup>4</sup> や環境影響評価プロセスを通じて反対の意を示す<sup>5</sup> など、ダウエイ SEZ 事業への地元の強い反対があることを考慮しなくてはなりません。JICA は、JICA 自身のミャンマーにおける、そして、国際的な評判について考えるべきです。

JICA の同事業への現段階での関与は、深刻な経済的リスクも伴います。ダウエイ SEZ 事業は 2013 年 11 月以降、資金難により失速しています。ミャンマー、および、タイ両政府は、イタリアン・タイ開発社 (ITD) から事業開発権を取りあげ、同事業の開発を進めるため、特別目的事業体 (SPV) であるダウエイ SEZ 開発社を両国の折半出資で設立しました。こうしたダウエイ SEZ の前段階における資金調達の問題を鑑みると、JICA のダウエイ事業への関与は、日本の納税者が費用負担を強いられることになるという点で、経済的リスクを伴う投資です。

<sup>2</sup> 上述の調査報告書 36~50 ページを参照

<sup>3</sup> カレン環境社会アクション・ネットワーク等による「国際協力機構 (JICA) の南東ビルマ/ミャンマー開発計画案に対する批評」を参照 (<http://www.ksan.asia/index.php/resources/publications-media/reports/viewdownload/4/152>)。また、リン・フジマツ氏とアレックス・ムーディー氏による「日本がミャンマーで犯す過ち」(ウォール・ストリート・ジャーナル 2015 年 1 月 7 日付)を参照 (<http://www.wsj.com/articles/rin-fujimatsu-and-alex-moodie-japans-misadventures-in-burma-1420566359> (英語))。

<sup>4</sup> <http://www.irrawaddy.org/burma/thai-burma-road-link-blocked-dawei-protesters.html>

<sup>5</sup> <http://karennews.org/2013/05/thai-surveyors-fail-to-gain-villagers-trust.html/>



## Dawei Development Association

Dawei Township, Tanintharyi Region, Myanmar  
dda.dawei@gmail.com

ダウエイ SEZ、および、関連事業への投資はまた、現在、和平交渉が不安定であることから、政治的リスクもあります。というのは、道路連結事業地はカレン民族同盟（KNU）の支配地域下にあるからです。<sup>6</sup> 実際、道路連結の建設は、土砂の増加に伴う河川の汚染、また、農地・プランテーションの破壊など、生計手段や環境に関する懸念から、KNUによってすでに数度止められています。<sup>7</sup>

JICA が考慮すべき政治的リスクのもう一つは、今年後半に行なわれるミャンマーでの総選挙です。新政権は、異なる政策や関心を持つ可能性があります。例えば、2010 年選挙以前の軍事政権が署名したミッソンドム事業は、現政権によって中止されました。同様に、2010 年選挙の 10 日前に付与された ITD への開発権も、2013 年 11 月に ITD から取り上げられました。さらに、2010 年選挙は、選挙権剥奪や有権者への脅迫、また、不正を多く伴うものでした。数十年のなかで、たった 2 回目となる今年の選挙が、自由かつ公正なものになるかは不明です。私たちはまた、この選挙の結果、投資にとって困難な政治状況になるかもしれない 2 つの可能性を考えています。一つは、選挙が適切に行なわれなかった場合、強い政治運動が起こり、結果として、軍によるクーデターに行き着く可能性です。二つ目は、軍の支持を受ける連邦団結発展党（USDP）が選挙で勝てない場合、ミャンマーでの不安定な状況が増大する可能性です。これらの可能性を考えれば、選挙に非常に近いこの時期に JICA がこのような懸案である事業に関与することは、大変なリスクです。

私たちは、JICA が、ダウエイ SEZ、および、関連事業への関与に伴う政治的・経済的リスクを真剣に、かつ、重く受け止めるよう期待します。JICA が最終的に、出資や融資、あるいは、調査であっても、何らかの関与を決定するのであれば、JICA は、同事業によって引き起こされた環境社会影響や人権侵害について責任を果たさなくてはなりません。したがって、私たちは、問題やリスクが適切に解消されるまで、JICA がダウエイ事業へのいかなる関与も控えるよう要請します。

以上、ご配慮いただけますようお願いするとともに、ご回答をお待ちしております。

ダウエイ開発連合（Dawei Development Association）

（翻訳 メコン・ウォッチ）

<sup>6</sup> <http://karennews.org/2011/10/burma-army-sends-reinforcements-to-secure-tavoy-kanchanaburi-road-construction.html/>

<sup>7</sup> [http://www2.irrawaddy.org/article.php?art\\_id=22767](http://www2.irrawaddy.org/article.php?art_id=22767)